

九重部屋の新たなスタートと高橋理子氏



2021年2月。
私が16歳から28年間育てていただいた墨田区の部屋を旅立ち、葛飾区奥戸にて新たに部屋を構えスタートいたしました。

まずは力士達が伸び伸びと稽古ができる環境を考え、私生活では楽しく過ごせるように配慮し、構想から2年をかけての完成となりました。力士は入門したその日からプロのアスリート、社会人となります。一人ひとりがその自覚を持ち、皆が切磋琢磨できるよう、また、この地に根を生やし地元の皆様に愛され見守られ、受け継いだ九重部屋を責任持って繋ぎをすることを私のさだめと誓い、歩んで参ります。

後援会の皆様、これからもよろしくお願い申し上げます。

また、九重部屋は2018年より、部屋の仕着せ（浴衣）をアーティストの高橋理子氏にデザインしていただいております。私が長年のファンで注目していた高橋氏の押上のスタジオを訪ね直談判したことがきっかけです。急な申し出にもかわらず快諾してくださり、その日から、毎年の浴衣のデザインだけでなく、部屋の千秋楽パーティーのお土産やグッズデザインなど、部屋を盛り上げる活動に多大なご協力をいただいております。

またこの度、九重部屋のシンボルマークをデザインしていただきました。このシンボルマークを一目見て、胸が熱くなり力が湧いてきました。力強い曲線を筋骨隆々の力士の仕切る姿に見えます。二つの土俵の意味も深く共感し、私の胸にある思いと同じだったことに感激いたしました。

高橋氏の愛情溢れる素晴らしい作品を頂戴し、一層身が引き締まる思いです。このシンボルマークとともに、九重部屋の成長する姿を皆様にお見せできるよう、一生懸命努力いたします。

九重龍二



九重部屋シンボルマーク



私は「制約から生まれる無限の可能性」をテーマに、正円と直線という最低限のモチーフで表現が続いています。円という形は、性別や世代、国籍、人種、あらゆる枠組みを超えて存在するもの。途切れず無限につながり続けるその形を、アーティストでありデザイナーのブルーノ・ムナリは「円は永遠の神秘、神様の形」と表現しています。

この九重部屋のシンボルマークは、力士の隆々とした身体の量感や、かつて神事であった相撲が持つ神聖な空気を感じさせるものを目指し、円を幾重にも重ねることで描き出しました。安定感や安心感を生む未広がりで左右対称のフォルムは、長い歴史から生まれる揺るぎない自信をも感じさせる風格ある佇まいです。

また、ふたつの土俵は、先代の培った土俵と、新たに誕生した九重部屋の土俵を表し、伝統文化である相撲を過去から未来へつなく担い手でもある九重部屋の姿を象徴しています。

このシンボルマークが、日本伝統の吉祥文様「青海波」のごとく幸福・繁栄をもたらし、打ち寄せる波のように勝機が幾度となく訪れ、途切れることのない円のように、九重部屋の精神が脈々と受け継がれていくことを願っています。

高橋理子



高橋 理子
TAKAHASHI HIROKO

アーティスト／武蔵野美術大学教授

東京藝術大学にて伝統染織を学び、東京藝術大学博士後期課程を修了。博士号（美術）を取得。ロンドンのヴィクトリア・アンド・アルバート博物館に作品が永久収蔵。正円と直線によるソリッドなグラフィックが特徴。着物を表現媒体としたアートワークのほか、オリジナルブランドHIROCOLEDGEにおいて、日本各地のメーカーや職人とともに様々なもの作りを行なう。

<https://takahashihiroko.jp/>

九重部屋浴衣デザイン

